



ちいき かつこつ
地域とともにある学校へ

だい2かいこみゆにていすくーるうんえいきょうぎかい しょうちゅうごとうかいさい ごほうこく
～第2回コミュニティスクール運営協議会（小 中 合同開催）のご報告～

6がつ16にち か だい2かいこみゆにていすくーるうんえいきょうぎかい かいさい こんかい くす
6月16日（火）、「第2回コミュニティスクール運営協議会」が開催されました。今回は、楠
しょうがっこう くすちゅうがっこう ごとうかいさい いいん みなさま くすちく こども みらい むけた
小学校と楠中学校の合同開催を行い、委員の皆様とともに、楠地区の子どもたちの未来に向けた
きょうつう かない ねっしん きょうぎ おこなわれました ないよう ほうこく
共通の課題について熱心な協議が行われました。その内容についてご報告いたします。

（きょうぎないよう1）くすちく ちけい かんがえた ほうさい ひなんたいせい
【協議内容①】楠地区の地形を考えた「防災・避難体制」について

さき みていがかく かわくちきょうじゆ ほうもん くすしゅう ちゅう えん ごう
先だって、三重大大学の川口教授を訪問し、楠小・中・こども園の校
えんちやう くすちく ちけいてきとくせい ひなんたいせい ありがた
園長が、楠地区の地形的特性を踏まえた避難体制のあり方について
れくちやー うけました こんかい きょうぎかい ないよう ちいき かがた
レクチャーを受けました。今回の協議会では、その内容を地域の方々に
ごしょうかい がっこう ちいき いったい ほうさい ひなん かんがえるきちやう
もご紹介し、学校と地域が一体となって防災や避難について考える貴重
きかい とうみ ちかいくすちく そうていがい つくらない
な機会となりました。海に近い楠地区だからこそ、「想定外」を作らない
ひなんたいせい ちやうちく むけ こんご ちいき れんけい ふかめて
避難体制の構築に向け、今後も地域との連携を深めてまいります。



（きょうぎないよう2）ちいきこどもきょうしつ あらた
【協議内容②】「地域子ども教室」の新たなスタート

なつやすみ ふゆやすみきかん じっし ちいきこどもきょうしつ
これまで夏休みや冬休み期間に実施してきた「地域子ども教室」です
こんねんど おおきないっぽ ふみだす きょういくすいしんか
が、今年度より大きな一歩を踏み出すこととなりました。教育推進課の
こみゆにていすくーる ほうかごかくしゅうしえんじぎやう しえん うける
「コミュニティスクールによる放課後学習支援事業」から、支援を受けることになりました。こ
こども ちやうききゅうぎやうちゅう まなび かつどう ゆたか じゅうじつ たいせい
れにより、子どもたちの長期休業中の学びや活動が、より豊かで充実したものになるよう体制
ととのえて
を整えてまいります。



（きょうぎないよう3）しょうちゅうごとうCS こみゆにていすくーる みらい むけて
【協議内容③】小 中 合同CS（コミュニティスクール）の未来へ向けて

げんざい ほうさい ほうかごかくしゅうしえん しょうがっこう ちゅうがっこう きょうつう かない かすおおく ぎむ
現在、防災や放課後学習支援など、小学校と中学校で共通する課題が数多くあります。義務
きょういく 9ねんかん しゅうがくまえ せいちやう ちいき いっかん みまもって くすちゅう ごうちやう
教育の9年間、そして就学前からの成長を地域で一貫して見守っていくために、楠中の校長よ
らいねんど れいわ9ねんど しょうちゅうごとうかいさい おおくかいさい しょうらいてき しょうちゅう うんえいきやう
り、来年度（令和9年度）は、小 中 合同開催をより多く開催し、将来的には、小 中の運営協
ぎかい ひとつ とうごう いっほんか くすちく いちがん 「いっかん さぽーとたいせい」 すたーと
議会を一つに統合（一本化）し、楠地区が一丸となった『一貫したサポート体制』のスタート（d
すたーと めざす ないよう ていあん ていあん たいし いいん みなさま
スタート）を目指すという内容の提案をさせていただきました。この提案に対し、委員の皆様から
たいへんまえむき ごさんどう りやうしょう
も大変前向きなご賛同と了承をいただくことができました。

こども あんぜん まもる すこやか まなび ささえる がっこう ちいきぜんたい
子どもたちの安全を守ること、そして健やかな学びを支えることは、学校だけでなく地域全体で

とりくむ たいせつ しめい こんかい ごうどうかいさい しょう ちゅう ちいき ち - むくす
取り組むべき大切な使命です。今回の合同開催は、小・中、そして地域が「チーム桶」としてが
ちりりと握手を交わす第一歩となりました。今後とも、皆様の温かいご支援とご協力をよろしく
おねがい申し上げます。

あきらめない心と、相手を思いやる強さ

～ドラゴンゲートの吉岡選手・しゃちほこBOY選手を迎えて～

18日(木)、本校の体育館に、プロレス団体「ドラゴンゲート」より、吉岡 勇紀選手としゃちほ
こBOY選手がお越しくださいました。体育館の中央に敷かれたマットを舞台に、目の前で
くりひろげられるはくりよくまんてん ばふおーまんすに、せいと め くぎづけ とく がんじょう
繰り広げられる迫力満点のパフォーマンスに、生徒たちの目は釘付けでした。特に、頑丈な
ふらいばん いっしゅん すて まげて しゅんかん たいいくかんちゅう だいかんせい
フライパンを一瞬にして素手で曲げてみせた瞬間には、体育館中にどよめきと大歓声が
わきおこりました。その後は、全校生徒でスクワットに挑戦し、体を動かす楽しさと心地よい汗
を全員で共有しました。興奮に包まれたパフォーマンスの後、お二人の口から語られた
「プロレスラーを自指したきっかけ」は、これから未来へ羽ばたく生徒たちの心に深く突き刺さる
ものでした。吉岡選手は、小学校で柔道、中学校では野球に打ち込み、当時からプロレスラー
に憧れていたそうです。一度は医療関係の仕事に就職したものの、「夢をあきらめきれない」と
いちねんほっき きびしいとれーにんぐ かさねてにゅうもんてすと ごうかく みごと ゆめ つかみ取りました
一念発起。厳しいトレーニングを重ねて入門テストに合格し、見事に夢を掴み取りました。

一方、しゃちほこBOY選手は、体格が小さく、当時の日本のプロレス界ではレスラーになるのは
むずかしい いわれて ゆめ こがら せんしゅ かすおおくかつやく
難しいと言われていたそうです。それでも夢をあきらめず、小柄な選手も数多く活躍しているメキ
シコへと単身渡り、自らの手で夢を現実のものとなされました。

「夢をあきらめなければ、必ず叶う」

それを自らの生き方で証明してみせてくれたお二人の言葉に
つよいせつとくりよく おはなし とく いんしやうてき
は、強い説得力がありました。また、お話のなかで特に印象的だ
ったのは、「いじめ」や「仲間への思いやり」についてです。プロレス
はげしくあいて なげたり けったり すぽーつ おたがい つよいしんらいかんけい
は激しく相手を投げたり、蹴ったりするスポーツです。だからこそ、「お互いの強い信頼関係と思
いやりがなければ、絶対に成り立たない」と、熱く語ってくださいました。相手を傷つけるため
ではなく、お互いを輝かせ、守るための強さ。大人になった今だからこそ分かる、思いやりの大切さ
についてのメッセージは、生徒たちの人間関係を見つめ直す素晴らしい契機となりました。

最後に、お二人は「日々の継続の大切さ」と「基礎・基本の重要性」を繰り返し強調されて
いました。華やかな技の裏には、地味で過酷な基礎練習の積み重ねがあります。これは、学校で
の勉強や部活動、そして日々の生活でも全く同じことが言えます。生徒の皆さんには、今回
ふろれすらー いきさま まなんだ こころ おもいやり せいしん じみち どりよく
プロレスラーの生き様から学んだ「あきらめない心」と「思いやりの精神」、そして「地道な努力」
を、ぜひ今後の学校生活に生かして行ってほしいと願っています。

